

「友松」の変遷 II

2011.1.16 発行
シリーズ 2-10
「友松」45号

(1) 第45号 友松会報 昭和33年9月25日(木曜日)

母校の将来

教員養成機関の在り方
会長 小林 梅茂
(六十四年卒)

御挨拶

学芸学部長 小林 高四郎
前神奈川県教育委員会委員長として、愛する母校を代表して、四月一日、友松会報に御挨拶を申し上げます。...

岩 実 験 所 使 用 要 項

母校の現況

母校の教官と学生
昭和三十三年三月卒業生数
昭和三十三年三月卒業生数
昭和三十三年三月卒業生数

成信社印刷所

東京都大田区蓮沼三丁目四番地
電話 浦田 78 5487 番

会誌「友松」は、この号から版を少々小さくし8ページのものになり、内容も充実させている。

会長は「母校の将来」と題した巻頭言に「芸学部の本質について従来は『教員の養成を目的とせず』との見解を堅持し、寧ろ教員養成を口にするが如きは自らを低めるものだとする一派が存した事は厳とした事実であって、吾友松会は深くこれを遺憾とし、判然とした一線の引かれるのを待望していた。然る処今般中教審は明快な態度で本問題に踏み切りをつけて文部大臣へ答申が為された。よって恐らく近く文部当局の採択するところとなり、政府の財政的裏付を得て実施に移るのもごく近い将来のことと考えられる」と記している。

そして、最後に「わが友松会は敢然として立つ! ということをここに申し上げておきたい」とむすんでいる。

(2) 友松会報 昭和33年9月25日(木曜日)

会務報告 (昭和三十三年度)

会計報告 昭和33年度予算表

科目	収入の部		支出の部	
	前年度	本年度	前年度	本年度
会費	1,100,000	1,102,847	704,000	749,997
寄付金	1,000	28,900	5,000	30,351
雑収入	1,000	1,000	1,000	10,215
雑収入	32,600	45,331	1,000	1,000
雑収入	30,100	42,148	1,000	1,000
雑収入	114,517	152,132	28,000	21,440
雑収入	114,517	152,132	138,000	167,128
雑収入	1,247,317	1,529,416	44,000	41,000
雑収入			20,000	20,000
雑収入			11,123	12,000
雑収入			240,000	246,640
雑収入			3,000	2,588
雑収入			453,000	421,794
雑収入			28,000	28,033
雑収入			111,500	216,000
雑収入			8,000	168,656
雑収入			18,000	7,263
雑収入			7,000	12,000
雑収入			15,000	14,450
雑収入			7,000	6,488
雑収入			20,000	20,000
雑収入			20,000	20,000
雑収入			20,117	20,117
雑収入			40,000	23,100
雑収入			40,000	23,100
雑収入			1,247,317	1,214,893

昭和33年8月24日認定

会計報告を見ると、決算額が1,329,410円と百万円を超え事業費には70万円以上を支出し、ますます事業を充実させていることがうかがえる。

(4) 友松会報 昭和33年9月25日(木曜日)

名譽の表彰

大 六 年 級 政 吉

初教壇

感想

大 六 年 級 政 吉

アメリカを見て

寄 藤 井 千 枝

知事表彰を受けた会員は、40年におよぶ教員生活を振り返り、母校で学んだことへの感謝を述べている。

会員投稿覧の「初教壇」には、3人の初任教員が、県下の学校で活躍している様子を書いて「大変であるが充実した教員生活を送っている」等、当時の教育現場を知ることができる。